

# 第10号



発行

## 檜山教職員組合

定価一年間300円  
組合員の購読料は  
組合費に含む

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1  
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490  
発行責任者 白山 尚  
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

### 〈今回の勧告のポイント〉

- ◇ ボーナス(期末・勤勉手当)を引き下げ △0.05月分
- ・職員の年間支給月数(4.50月)が民間の支給割合(4.44月)を0.06月分上回っていることなどから、0.05月分引下げ(4.45月に改定)
- ・引下げ分は、期末手当の支給月数に反映
- ・実施時期は、この改定を実施するための条例の公布日

北海道人事委員会は10月30日、道議会と知事に対し、道職員・教職員の一時金について、期末手当を0.05月引き下げの勧告を行いました。

コロナ禍のなか、いつの間にか、長時間労働が余儀なくされる現場職員の現状を顧みず、公務員の労働基本権の侵害として、果たした役割を果さない。到底この間の引き上げは、

# ボーナス0.05月引き下げ勧告

## 北海道人事委員会



### 月例給は別途

# 実態顧みず代償機関の役割に？

改定では、「勤務実態に応じた給与を推進するため」として、すべてを勤勉手当に充ててきたにもかかわらず、引き下げるときは全員が対象となる期末手当に充てることも容認できません。

感染拡大により勧告が大幅に遅れたことはやむを得ないとしても、一時金のみを先行して勧告したのは政治的な思惑を反映したもので、代償機関の公正性に照らして問題です。

月例給については、人事院の据え置き勧告(10月28日)を踏ま

え、別途勧告としましたが、コロナ危機のもとで奮闘する現場職員の賃金引き上げと処遇改善は切実です。公務が果たしている社会的役割にも着目した対応が求められます。

公務員賃金改善は他のすべての労働者の賃金や最低賃金にも影響します。また、地域経済の活性化や個人消費の拡大にも波及します。教職員については、この後、道教委との確定交渉が行われます。現場の要求や思いを組合にお寄せください。

## 現場の声を聞かずに 条例提案だなんて!!

道教委は過日、北海道における「1年単位の变形労働時間制」導入に関し、第4回定例道議会(11月下旬)に条例案を提案する旨を道高教組と道教組に説明しました。

同制度については道教委は、9月に実施した道立学校と市町村教委への「意向調査」で「すべてから回答があり、その8割が導入に向けて検討」という結果だ

# 「1年単位変形労働」で内容提示

### 道教委

していますが、学校現場ではほとんど検討されていないのが実態です。「意向調査」は道立学校長と市町村教委(教育長)が「回答」する仕組みになっており、組合の独自調査でも、当事者である現場教職員の意向が確かめられたというところはほぼありませんでした。

文科省が示す「まずは各学校で検討」ということについて道教委は9月の道議会でも、「一つの例として示されたもので…必ずしもこの手続きに従う必要がない」と弁明しましたが、事実と道理にもとります。文科大臣が「学校のみならず」というものを導入できない」と答弁し、文科省作成の『導入の手引き』に反映されたのです。『手引き』の「例えば県費負担教職員については、まず、各学校で検討の上、市町村教育委員会と相談し、市町村教育委員会の意向を踏まえた都道府県教育委員会において…条例等を整備することが考えられます(8頁)」の記述を、「必ずしも必要ない」と解するとしたら、為にする曲解の極みです。民間では労使が対等な関係で結ぶ労使協定が必須条件で、文科省作成の動画でも「民間向け制度をベース」にしたと説明されています。

# 核兵器禁止条約 1月22日発効



批准50カ国・地域到達を祝う集会=10月25日広島市

10月24日、核兵器禁止条約の発効に必要な50カ国・地域の批准に到達し、同条約は90日後の来年1月22日に発効することになります。

# 「日本政府も」参加求める署名がスタート

同条約は2017年7月、国連会議で122カ国の賛成で採択、核兵器の保有・使用から威嚇まで広く禁止します。核兵器の完全廃絶をうたい、核被害者の救済や環境回復の措置も盛り込みます。

条約発効で核兵器は違法となります。日本政府は核

抑止力に固執し、条約不参加の立場です。

こうしたなか、10月29日、被爆者や各界各分野の著名人が「唯一の戦争被爆国」日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名を提起しました。日本の参加は歴史的責務であり国際的激励となるはずと訴えています。

## 終戦75年の被爆者

### カナダ在住の被爆者 サロー節子さん

〈談話の抜粋要約〉 私たちが目指す核廃絶の達成にはまだ長い道のりがある。その日が来るのを私が見ることがはなさない。多くの被爆者が自らの記憶とともに、その日まで証言することもなさそう。でも核兵器禁止条約があれば、その美しい夜明けが来るのだと信じることが出来る。その日が来た時、私たちが被爆者として、あふれ出す。

世代を超えた放射能被害のすべての犠牲者らは記憶に刻まれ、その時生きている誰かが私たちに報告してくれることだろう。禁止条約は新たな扉を大きく開けるもの。じくなた者への感謝、これから訪れる者への心からの歓迎をしっかりと胸に、核兵器の「終わりの始まり」へたどりついた。さあ扉を踏み出そう。

労働条件の深刻な改変にもかかわらず当事者の意見を聞く必要がないという現場無視の不誠実な対応は、決して許されません。高教組・道教組は緊急に交渉を申し入れました。交渉の場で現場の声を届けますので、別途配布の「カード」で声をお寄せ願います。

2020檜山合研地域別集会 実践報告より



「嘆いてばかりいられない」―気概が込められた報告でした。着想から構想までよく練られ、子ども主体の実践過程が示唆に富みます。山根里美さんの報告を紹介します。

上ノ国小学校 山根里美さん

た。心が折れそうな状況にありながらも、前を向いて乗り越えようとしている姿と心がひしひしと伝わってきた。

運動会中止のお知らせの時間も、「ヨサコイを5年生にしつかり伝えて来年以降も続くようにしよう」「なに

最強！最高！6年生

今年度、持ち上がった6年生の担任になった。コロナ禍に見舞われたこんな時でも健気で前向きだ。そんな子どもたちが掲げた学級目標は「最強！最高！6年生 ☆どんなときもみんなの知恵・工夫・助け合いで乗りこえる最強の6年生 ☆

最高学年として行動し、最高の思い出をつくる6年生。進級時に書いた作文には、休校期間中、卒業式に参加できず残念に思ったこと、その間に6年生になり、いつもと違う新学期スタートを迎えて戸惑っていること、制限される

「感染症の歴史」学習

「総合的な学習の時間」で感染症の歴史を調べる活動にとりくむことにした。今の今、自分たちの生活を脅かしている「感染症」のことなので、子どもたちは真剣に調べ学習に臨んだ。ペストやコレラなど感染症の大流行が人々の生活にどのような脅威をもたらしたか、そして人々はそれらをどう乗り越えてきたかなど、感染症が人類の歴史とともにあったことを調べていった。20世紀初頭に猛威を

振るったスペイン風邪についても調べた。前向きな子どもたちなので好奇心も旺盛、そこに働きかける工夫も肝心だ。おたよりの次週の予定に「総合ミステリーツアー」と載せた。それを見た子どもたちは、「先生！このミステリーツアーって何ですか？」とさっそく反応する。でもそこは、「何かを探しに行きます」とだけ伝え、あとは秘密にしておく。

感染症の歴史調べから劇へ

ミステリーツアー

そして当日、玄関前に並んだ子どもたちに、「みんなは人類を苦しめてきた感染症について調べてきたけど、実はここ上ノ国でも過去に感染症が大流行したことがわかってる手がかりがあるんです。それを探しに行きます」と目的だけを伝え、行き先は告げずに出発した。

途中、「昔のことだから、花沢館に…のぼりません」、「病気のことでから診療所に…行

きません」などとフェイントをかけては好奇心をくすぐる。そうして着いたのは上国寺前(※注)。「ここならわかるかな?」と階段をのぼる担任の後を付いてきたのは一人だけ、他のみんなは、「どうせまたフェイントだ、だまされなよ」と動かない。でも、「ここが目的地です」と伝え、境内に入った。担任は「まんまとだまされたな」とほくそ笑む。こんなやりとりもまた楽しく、子どもたちとの間に和やかな安心感が広がる。

「不慮病死者追悼碑」

境内に入ると「手がかり探し」を始めた子どもたちは、ある石碑を見つけた。そこには次のような碑文が刻まれていた。

【裏】大正九年五月五日大供養 大正九年九月十二日建立 大字上ノ国村 大留村・北村 有志

子どもたちが調べた「スペイン風邪」の世界的な大流行の時期、その時期が大正時代と重なることに気づく子どもたち。「上ノ国でもスペイン風邪が流行し死者が出た」「石碑を建てるほどだから、多数の死者が出た」



上ノ国町上国寺の境内に建つ「不慮病死者追悼碑」

というところまでたどりついた。子どもたちから、「当時の人口のどれくらい割合で感染者が出たんだろう?」「当時は、どんな対策をして乗り切ったのだろう?」「今でも当時のことを覚えている人は生きていますか?」「といった疑問が出てきた。学芸員に尋ねることにした。

学芸員を招いて

一週間後、教育委員会にいる二人の学芸員をゲストティーチャーとして招き、子どもたちの疑問に答えていただいた。

大正九年、上ノ国を襲ったスペイン風邪で116名もの人命が失われたことが紹介された。ウイルスの存在が知られていなかった当時、風邪や肺炎と診断されたこと、村医が一人いたが、感染者の家を十分に回りきれなかったこと、村役場から北里研究所に注射薬剤を依頼したものの、全国から同様の依頼が殺到し、断られたことなどのお話しを聞くことができた。その当時の人々の不安や苦勞が迫って伝わってくるような内容だった。

他にも、室町時代に上ノ国で流行った感染症のことも教えていただいた。原因が分からないことから、「病」というより「たたり」とか「神様の怒りがあった」とさされたため、感染症で亡くなった人の頭蓋骨には、封じ込める意味で、すり鉢や鍋がかぶせられたと

いう話も衝撃だった。子どもたちは今の状況と重ね合わせながら、真剣に聞いていた。子どもの感想を一編だけ紹介したい。

今と病気の症状を比べて考えたら、すごく重いなと思いました。今は、衛生面も昔よりはしっかりとっているからなのか?とか、医者が少ないのか?とか、話を聞いている間に沢山考えさせられました。そして6年生のために詳しくわかりやすく伝えてくれて、すごくわかりやすかったです。室町時代に感染症にかかった人が突然鼻がとれるとか、こわすぎる!今、流行している「新型コロナウイルス」もスペイン風邪のようにおさまるのを待つしかないのかな。でも今は、医療技術も進歩しているのでもっと早く対策をして一日でも早くコロナウイルスがなくなっ



※注 上国寺 重要文化財。永禄3年(1560)頃の建立とされ室町時代に存在。現在の本堂は宝暦8年(1758)の建立とされ現存する寺院建築の建物として北海道で最古とされている。

(次号に続く)

本紙では、今後も現場の実践を紹介していきたいと思えます。読まれたの感想などを寄せください。紙面で交流し、視点や課題を深め合いながら日常の実践に生かされていく一助となれば幸いです。

6年生と学ぶ「総合的な学習」「国語」「算数」発表会